

評価計画						学校評価の結果・評価・課題・改善案					
中期目標	短期目標 (今年度重点目標)	主分掌	具体的な取り組み事項	短期目標に対する評価指標 (または到達したい状況・状態)	目標値	結果	昨年度 (参考)	校内 評価	反省及び次年度への課題等	学校 関係者 評価	改善案
確かな学力を育む	教職員の授業力向上	教務	互見授業や研究授業、授業力向上に係る研修に参加する。	互見授業等に参加し、実施数等を生徒・保護者に報告し、活動に対する認知を問う。アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	教員 63.6% 生徒 81.7% 保護者 54.9%	88.2%	C	●互見授業の実施期間を削減したために、相互研鑽の実感が持ちにくかった。個々の教員が目標に応じて積極的に参観授業が持てるよう、期間、教科、系列といった固定的な枠組みを越えたシステムを考える必要がある。	C	●ICT機器導入が進んでいる。その具体的な活用方法を共有する機会を、教員研修として設定する。 ●実践結果を集約し、間接的参加によっても研鑽できるように整える。
	ユニバーサルデザインを取り入れた授業の実践	教務	遼摩高校の統一ルールに基づいて授業をし、生徒にとってわかりやすい授業を行う。	全ての授業で統一ルールに基づいた授業が行われていると認識しているかと問うアンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	教員 100% 生徒 86.0% 保護者 45.5%	生徒 83.8% 保護者 29.6%	A	●授業実施時の統一ルール定着がうかがえる。次年度はルールの意義をより深く認識できるように、教員研修、生徒啓発の機会を設けたい。前年度に比べて保護者理解は進んでいると考えるが、十分とは言えない。	A	●統一ルールの実践を継続しつつ、次のステップで何ができるか、何をすべきかを検討する。
「志」「夢」「未来」を見つめさせる	人権意識・規範意識を高める	生徒指導	いじめや生活の安全に関する情報を学年会や部活動顧問と連携し、収集の徹底を図る。	生徒アンケートにおいて「『いじめをしない、させない、許さない』を心がけた学校生活を送っている」に対して「A」「B」と回答した割合	100%	94.5%	93.6%	C	●今年度は生徒と保護者が早急にいじめの対処を学校側に求める事案がなかったため、保護者の「いじめ防止や生活の安全について生徒からの情報収集に努めているか」について6.5%昨年度と比べて上昇したと思われるが、現状「嫌な思い」を抱えて登校している生徒はいるので対応を考えていきたい。 ●生徒による評価では、学年会、部活動顧問と情報共有するなど連携して指導し、全校集会などで、いじめについての話を再三行って意識改革に努めたため、「いじめをしない、させない、許さない」を心がけた生徒が94.5%と高い評価となった。いじめ問題は心身に關わることなので、100%としたい。	C	●保護者アンケートでは昨年度と比べて6.5%上昇したが、目標値80%にはほど遠い。担任やいじめ防止委員会と連携し、生徒対応の役割を明確にして情報収集に努める。 ●SNSへの安易な書き込みが、他人を傷つけることがあるなど、情報モラル教育を推進し『いじめをしない、させない、許さない』を目標値100%に近づけていく。
		図書 (人権教育)	人権・同和教育LHR及び、教職員研修を充実させ、人権意識を高め、人権感覚を磨く。	アンケートにおいて「人権・同和教育によって、人権意識・感覚が高め、磨けた」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 70.4% 生徒 91.0% 保護者 62.9%	教員 48.4% 生徒 88.5% 保護者 38.4%	B	●昨年度に比べ、いずれの数値も上がっており、人権・同和教育LHRをはじめとした取組が全体としては前進していると思われる。 ●保護者の数値は他の数値に比べると低いのは、「たより」の発行などによる情報発信が不足しているからと思われる。	B	●LHRの準備・共通理解の時間のいっそうの確保と充実が必要である。 ●「人権同和教育だより」の発行により、LHRの取組等を積極的かつタイムリーに情報発信していくことが求められる。
	体験的な教育活動への積極的参加	生徒指導	生徒主体で達成感が持てる部活動や生徒会活動を実施する。	生徒アンケートにおいて「諸活動において達成感や充実感を味わっている」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	84.3%	83.7%	A	●現学校の状況下において、生徒からの評価が昨年以上の高評価の84.3%となり、多くの生徒が達成感や充実感を味わっていることには驚きもあるが、目標は達成されたものと評価する。学校全体としての部活動の活性化についてはこの高評価に甘んじてはならないと考える。	A	●配付物やHPを通して、生徒の達成感や充実感が保護者や地域の方々にも伝えられるように努めていきたい。それによって生徒に自信を持たせ更なる学校の活性化につながる取組が期待できる。
	キャリア教育の充実	進路指導	社会的・職業的自立に必要な知識の習得と態度の育成を支援する。	生徒・保護者アンケートにおいて「生徒の自立と進路実現に向けての指導・支援に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	生徒 89.8% 保護者 84.3%	生徒 88.8% 保護者 73.7%	B	●生徒・保護者ともに、目標値に到達し、一定の成果が得られたと評価できると考える。 ●保護者アンケートのうち、「進路に関する資料の提供」については、高い評価は得られなかった。昨年度の反省に立ち、進路行事の報告をHP上で行ってきたが、不十分であったと受け止める。 ●教職員からの評価は、総じて高いものをもらったが、並行して実施したアンケートより、いくつかの項目については、評価またはコメントを踏まえて、次年度に向けて改善策を検討。	A	●保護者対象の情報発信に関しては、HP利用に加え、やはり「紙媒体」のものの発行に向けた努力が必要と考える。 ●進路ガイダンスは、前期後期各1回に設定し、この実施と連動しての、進路講演会やミュージカル等の進路行事を精選。生徒のみならず、保護者に対しても情報提供の場となることも狙いつつ、時期・内容において向上を図る。 ●1年生2年生の全員受験模試については、受験を通して得られた情報を、授業内容や、生徒の意識付けに反映させるための情報提供のありかたにつき、一歩踏み込んだ努力をしていく。今年度は、進路研修会においても模試業者からの助言提案をもらうことを予定している。3年生全員受験のSPIは、生徒の実態を踏まえ、常識テストに変更する。看護医療模試は、業者の実施方法変更に伴い、学校を会場とする受験設定は取りやめ、従来実施している「希望者対象実力判定模試」の受験を奨励する。希望者模試実施方針については、年度当初に各学年会の理解をしっかりと得られるよう図った上で、従来同様実施する。 ●インターンシップには多くの教職員の協力をお願いする。担当の振り分けや指導計画立案より、今回出た意見を検討するとともに、各方面とのコミュニケーションを今まで以上に密にして実施する。
	個々の生徒のニーズにあった支援を充実させる	保健 (特別支援)	特別支援教育推進委員会、ケース会、カウンセリング委員会を定期または即時的に開催する。外部支援機関との連携も積極的に行う。	教員アンケートにおいて「特別支援や教育相談の機能を十分に果たしている」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	97.1%	93.8%	A	●支援の必要な生徒、配慮をお願いする生徒が年々増加するなか、すべての先生方の協力を得ながら目の前の生徒の事を考えた取り組みがすすまれていると考えている。	A	●今後も校内外の連携をそれぞれ密に行い、特別支援教育、教育相談を推進していきたい。
保護者や地域と共に創る学校	学校活性化のさらなる充実	総務	ファイブスターカンパニーによる運営が分かる活動とする。	教員・生徒アンケートにおいて「ファイブスターによる運営となっている、フェア全体の取り組みが明確である」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 79.4% 生徒 84.9% 保護者 86.8%	85.8%	C	●年度途中で大きな組織変更は混乱を招くので現行の組織体制で行った。今年度は出来ることから微修正をかけ、ファイブスターカンパニーが企画・運営していることを明確にするために実施要項の作成、生徒企画会議を3回実施したほか、決起集会・総合司会の設置・職員会議への情報提供など、目に見える形で実施してきたが、周知不足のため教員の評価は低くなったと思われる。教員の達成感や満足感が得られる仕組みとなっていない点が今後の課題である。 ●一方、生徒による評価は高く嬉しいところである。	C	●今年度に引き続き、魅力化担当者→系列主任会→魅力化推進委員会→職員会議を経て、会社組織の見直しと「銀の哲学B」の学習内容・学習方法を見直す。全教員が主体的にフェアに係わろうとする姿勢を引き出すため、周知活動をこまめに行いたい。 ●教員自身が主体的となり前向きで建設的な意見を出し合える雰囲気醸成する。
			フェア来場者数を昨年度並みはキープする。	2回のフェアの延べ来場者数が2,000人以上	100%	計1,920 春650 冬1,270	2717 (599) (321) (1797)	A	●ほぼ目標を達成。雨の影響もありウィンターフェアの来場者が昨年度と比較して落ち込んだが、各系列の特色が前面に出たフェアとなった。広報は全ての系列の企画内容が確定するまで待ったことでフェア直前となった。 ●概要版による第一報的告知が必要と痛感した。	A	●現時点で、次年度はウィンターフェアのみの開催を考えている。 ●各系列の企画立案では時間的余裕が生まれるので、見通しを持ったイベント告知が出来ると考えている。
	大田市との連携による学校魅力化事業の推進	総務	総合学科主任・魅力化コーディネーターと連携して大田市との調整を図り、本校教員が魅力化に向けた意識を更に高める。	教員アンケートにおいて「昨年以上に魅力化に向けた意識が高まり、主体的に関わりたかった」と思った・または主体的に関わったことがある・または自分の立場で取り組んでみた」の合計数で2回以上と回答した教員数	80%	51.9%	76.5%	C	●大田市との定期的な情報交換会、校内での総合学科主任・魅力化コーディネーター・関係者による魅力化に向けた会議、大田市主催の魅力化事業への教員参加、本校単独での総合学科魅力化に向けたイベント実施等の共通点が見いだせないうちの連携を、それぞれの内容やそれに対する思いが違うので、大田市と学校がタッグを組んで調整し合うところまで行かないのが現状だ。 ●魅力化に向けて小さなアクションを起こしている教員が少ないことはとても残念だ。	B	●大田市が企画する魅力化関係事業へ、参加未経験の教員の参加を促す。 ●大田市が企画する魅力化事業は多数あるが、遼摩高校の現状と照らし合わせて思惑が一致する事業については、魅力化担当者会・系列主任会・魅力化推進委員会を経て積極的に取り組む。 ●校内外でのアクション体験を通して、教員個々の意識高揚を図る。
中高連携認識の向上	教務	担当部署からの情報発信を推進する。	情報提供された資料を読み、現状を認識したとする教員の割合	80%	65.6%	44.8%	C	●入学時、中学校からの情報提供を得て、生徒理解に効果があったと考える。中高連絡会も適切に機能していた。さまざまな形で連携は構築されているが、総合的な情報発信に至らず、実感として認識されにくかった。	C	●「中高連携」に係る取り組みそのものの情報を集約し、全体として何を行っているかを明らかにする。	

	学校関係者への効果的な情報発信	教務	効果的に情報発信を行い、現況の周知に努める。	教職員によるHP情報掲載数：月平均20回以上	100%	11回	9回	C	●HP情報掲載を適宜呼びかけ、前年度月平均(9回)を上回る更新(11回)となった。それに伴い、アクセス数も前年度(2045回)を上回る月平均(2273回)となった。一気にとは行かないが、堅実な向上と考えている。	C	●部活動に限らず、分掌や学年部などの取り組みなどについても、あらたなコンテンツの開拓を検討する。	
効率的で安心・安全な学校づくり	安全で整備された学習環境づくり	保健	生徒保健委員による学校環境美化のための取り組みを実施する。	教員・生徒のアンケートにおいて「学校の環境美化に対する意識が高まっている」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 81.8% 生徒 81.3%	教員 74.2% 生徒 91.2%	A	●例年になく生徒保健委員会が諸活動に積極的に取り組んだ。掃除の放送や大掃除チェックシートの配布、回収など、少しずつ活動を増やしているところである。	A	●保健委員会の活動については今後も自ら動き、意識を高く持つことができるような仕掛けをしていきたい。 ●全校生徒に対しては、自分の学校をきれいに保ちたいという気持ちになり、行動となってあらわれてくるようにしたい。そのために今後も生徒保健委員会の活動を活性化させたい。	
	図書館活用の充実	図書	新聞学習や読書感想文などを契機に、図書館を活用する機会をつくる。図書の利用や授業をはじめとする図書館の利用度を高める。	教員・生徒のアンケートにおいて「図書館を学習活動や生徒の学習に活用できた」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 44.1% 生徒 48.9%	教員 42.9% 生徒 44.4%	C	●昨年比べても、休休みや放課後、試験勉強等も含めて図書館にくる生徒の数は増えているが、すべての生徒が利用しているまでにはいっていない。 ●図書館によくきて図書を閲覧する生徒でも、本を借りるという利用にまではいたっていない。 ●教科の特性や各教室にICT機器が整備された関係もあってか、図書館の本・雑誌・資料等を利用した授業が、一部教科に偏る傾向にある。	C	●全校生徒を対象とした図書館だよりなどの広報物やNSファイルの実施を充実させて、生徒の活字離れに少しでも歯止めがかかるように努める。 ●図書委員会が主催する文化祭展示や図書館イベント、絵本の読み聞かせ会、店頭選書などの活動を充実させる。 ●新刊案内の掲示・展示や一部教科とコラボした季節の展示やテーマ展示の機会を増やし、図書館への関心を高める。 ●除籍した図書や期限切れの雑誌などを、生徒・教職員に譲渡する。 ●読書感想文の図書選書の際、事前指導や図書館終礼をさらに充実させて、図書の貸し出し数の底上げを図る。 ●総合的探求、課題研究、銀の哲学等でも図書館の積極的な利用を促す。	
				貸出数3冊以上の生徒の割合(1月までに2.4冊以上)	100%	2.2冊	2.5冊					
				図書館を活用した授業数が年間200時間以上(1月までに160時間以上)	100%	132時間	160時間					
	寮内での学習を習慣づける	舎務	定期試験期間中の学習時間の確保を特に徹底させる。	教員アンケートにおいて「定期考査期間中にまじめに学習に取り組むことができた」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	44.4%	64.3%	C	●定期試験期間中の学習状況はほぼ良好であったが、平素の学習の取り組みはあまり良くなかった。学習時間の定着をもう少し図っていければよかった。 ●学習することの意義や学習時間の確保が課題である。また、学習以前に生活習慣についての指導が必要な生徒が多い。	C	●平素の学習時間を30分以上は確保できるように粘り強く指導し、取り組ませたい。また、キャリア教育・進路の面からも学習することの大切さを伝え、学習意欲を高めていきたい。	
丁寧な来客対応・適切な予算執行	事務	丁寧な来客対応、電話対応を行う。	来校時や電話の際、対応が良かったと感じている割合	80%	92.0%	85.6%	A	●丁寧な対応に心がけ、目標値を上回る評価結果であったが、更にアップするよう取り組みを進める。	A	●来客や電話に対する丁寧な対応を更に心がけていく。		
		教職員と連携した予算執行をする。	事務処理に満足している割合	80%	97.1%	94.7%	A	●予算要望をとりまとめ、ヒアリングをした上で査定を行ったり、執行予定を把握しながらの予算管理をしたことから目標値を上回る評価結果であったが、更にアップするよう取り組みを進める。	A	●予算要望、予算執行状況や外部講師講演の必要経費などについて教職員と事務室とで早めの情報交換を行い、更に連携を深めていく。		
総合学科の魅力UP	総合的な学習の時間(3年間)の整理と役割分担	系列	産業社会と人間・進路設計・銀の哲学・課題研究の流れを確立し、組織と役割分担を明確にする。	教員アンケートにおいて「産業社会と人間から課題研究までの流れが確立され、組織と役割分担が明確になった」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	41.4%	61.3%	C	●キャリア構築に向けての仕掛けが充実しているのが総合学科の強みである。本校3年生の銀の哲学は、その流れから離れた感じである。産社、進路設計、課題研究と繋ぐ大きな幹を再構築しなければならない。そのための組織改革は難しいが、役割分担を明確にすることは可能と考える。誰が何をしているのかわからず、総合学科の強みも発揮しきれていない現状から脱することが急務である。	C	●総合学科主任が総括役となり各学年の担当者を巻き込み、それぞれの学習内容・学習方法の修正案を作成する。(テーマを設定したえんたくん会議も並行実施する) ●魅力化担当者会→系列主任会→魅力化推進委員会→職員会議の流れの中で、1年産社→2年進路設計→3年課題研究へと繋がる総合学科の大きな幹を再構築する。	
	遼摩高校学習成果発表会の充実	系列	1, 2, 3年生とも、発表内容・研究目的が自己の将来・系列学習と繋がっており、発表態度や研究手順(動機・仮説・検証・まとめ)も充実したものになるよう支援する。	教員・生徒アンケートにおいて「学習成果発表会での生徒発表は、自己の将来・系列の特色を踏まえており、研究手順・発表態度も適切であった。」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 65.0% 生徒 88.4%	教員 83.9% 生徒 86.5%	B	●アンケート実施時期には学習成果発表会が行われていないので、実際には系列別課題研究発表会の評価となってしまった。3年生は系列の特色を踏まえた発表となっていた。 ●1月に実施した学習成果発表会での1, 2年生の発表は自己の将来に繋がる発表でとても良い内容だったので、1, 2年生が参加したことは良かった。	B	●現在まで総務部が総括をしているが、総合学科主任を総括役とする体制に再編して実施した方がスムーズと考える。 ●1, 2年生の発表準備を、どこで誰が行うのか明確にする。	
	学年会による指導の充実	各学年会	1年	面談・個別指導による生徒の関心や適性を把握する。教職員同士の連携により密な情報交換を行う。	教員・生徒・保護者のアンケートにおいて「学年会による指導に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 96.4% 生徒 95.1% 保護者 91.5%	教員 96.2% 生徒 86.8% 保護者 79.5%	A	●多様な特性を有する生徒が多く、合理的配慮を意識しながら、生徒中心に考えて、保護者や関係機関への連絡を密にするなど対応した。担任の先生を中心に、生徒との面談を定期的実施し、生徒の実態把握に努め、個別に具体的な支援をすることができた。また、保健部を中心に学年会を越えた多くの先生方からサポートをいただき、生徒への支援と指導に活かすことができた。 ●生徒からの回答は概ねよかったが、保護者からの回答は若干低くなっている。学校での生徒の様子が伝わるよう、定期的な学年便りやクラス便りの発行、HPの活用が必要であると考えている。	A	
			2年	生徒一人ひとりの理解を深め、個に応じた指導を行う。進路意識の醸成を図り、将来的なビジョンに基づいた学校生活を送らせる。	教員・生徒・保護者のアンケートにおいて「学年会による指導に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 95.7% 生徒 91.7% 保護者 71.2%	教員 70.4% 生徒 79.4% 保護者 77.1%	A	●問題を抱える生徒については、保健部・系列・顧問などキーパーソンとなる先生方から支援をいただき担任を中心として指導をおこなってきた。普段の生徒理解には定期的な面談、日常的な声かけ、観察等を組み合わせ生徒の実態をつかみ指導に活かせるように努めてきた。 ●保護者からの解答が低い理由として、学校の情報発信やこまめな家庭連絡が今まで以上に必要となってきたことが伺える。今後は、学校からの情報発信(学年便り、学級便り、各分掌からの連絡、HPなど)をより多くおこない学校生活の様子をわかりやすく伝えていく必要がある。	A	
3年			生徒一人ひとりの状況に即した個別面談などの指導や支援を充実させる。学年集会などを通し、進路実現に向けた全体指導を充実させる。	教員・生徒・保護者のアンケートにおいて「学年会による指導に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 96.0% 生徒 82.4% 保護者 83.9%	教員 96.6% 生徒 88.9% 保護者 82.8%	A	●担任を中心として、分掌や系列の多くの先生方からのサポートをいただき、個々の生徒の希望・適性に応じて個別面談・指導を行ってきた。また、機会を捉えて学年集会などを設定し、最高学年としての意識づけを試みた。卒業に向けて、引き続き粘り強く対応していきたい。	A		
遼摩高校満足度		教職員一丸となり魅力ある学校づくりを推進する。	生徒アンケートにおいて「学校生活に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	84.2% ()内は 上から1 年 (83.1%) (88.1%) (81.6%)	75.7% ()内は 上から1 年 (80.7%) (74.3%) (72.0%)	A	●昨年度は全体の満足度が約75%に留まったが、今年度は、全学年とも80%以上の生徒が満足している結果となった。 ●その要因として、昨年度に比べ、いじめ等の友人トラブルが少なく、落ち着いた雰囲気の中で安心して学校生活が送れたところが挙げられる。 ●そして、部活動や課題研究等に意欲的に取り組み良い成果があげられた。	A	●魅力ある学校とは、生徒自身が明るく夢と希望を持って活動する活気あふれる学校である。 ●そこで、生徒主体の会である「遼摩高校を考える会」の充実を図り、生徒の意見を反映した魅力化に取り組んで行くと共に、一層地域連携を進め、魅力化の推進及び発信を行う。 ●また、基礎学力の定着、基本的な生活習慣の徹底を強化し、夢の実現に向けて、充実した学校生活を送れるよう指導体制を充実させていく。		